もくじ

はじめに …… 2

いつからはじめるの？～子どもをお絵かき好きにするには？ … 4
- ゆみちゃんのえんぴつ

いよいよかきはじめた！～お絵かきコーナーのやくそく … 6
- すぐできる！わが家のミニ・アトリエ

「かいて！」とせがまれたら …… 8

絵は心のことば～心のサインに目をとめよう …… 9

子どもの絵の発達段階 …… 10

おすすめアートワーク

1. ぐるぐるアート（スクリブル） …… 12
- ぐるぐるからはじまるコミュニケーション

2. 線みつけ …… 14

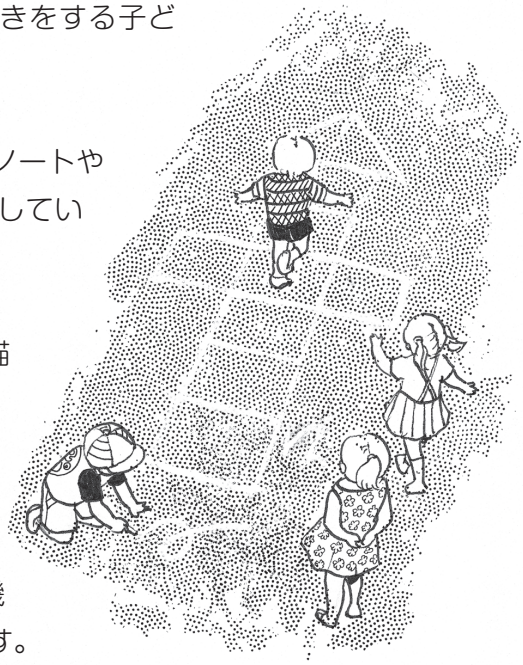
3. ねんど遊び …… 16

4. かわりばんこ線引き遊び（相互画面分割画法） …… 18

5. ものがたり切り絵（物語相互完成画法） …… 20

6. くらしの中で創造性アップ …… 22
- おすすめ画材

はじめに



最近、道ばたでらくがきをする子どもの姿をみかけますか？

お子さんは、家で古いノートや広告の裏紙にらくがきをしていますか？

何かを夢中になって描く子どもの姿を見かけることが少なくなりました。数十年にわたる生活様式の変化は、子どもから自然な表現の機会を奪いつつあるようです。

―でも、絵なんか描けなくても、別にどうってことないんじゃないの？

―自分も大人になった今は、ほとんど描かないけど、ぜんぜん困ってないし。

そうお思いのあなた、少し考えてみてください。

言葉が十分に話せないうちから、人は「かく」ことを始めます。それは、言葉や概念を操ることを覚えた大人には、無意味で無秩序な線の集まりに見えるでしょう。

しかし、この“らくがき”こそ、子どもを成長へと導く軌跡なのです。腕や指のコントロール、形や色の認識とその表現、さらには家族や身の回りの人々と自分との関係性…実は子どもの絵は、いろいろなことを語ってくれるメッセージの宝庫です。お絵かきをしないということは、そういう認識や表現の手立てがごっそり失われるということなのです。

表現力を身につけることは、生きる力がつくことと同じです。そのことを一人でも多くの方に伝え、子どもの表現活動を楽しみながらサポートするいくつかの方法を伝えるために、このブックレットをつくりました。

さあ、ちょっと手を止めて、ページをめくってみてください。
あなたと子どもの新しい体験が始まることでしょう！



2011 年 11 月
NPO 法人ライフスキル研究所

いつからはじめるの？

子どもをお絵かき好きにするには?!

子どもとお絵かきの出会いは、ごく小さい頃から始まります。



児童絵画研究にすぐれた業績を残したローダ・ケロッグは、母に抱かれている子が宙に向かって手を振り上げる動作がすでにスクリブル（なぐりがき）だと言っています。

遊びに行った公園の砂場や柔らかい地面も、自然に描き始める適切な場所になります。画材もなく、描くもののイメージがまとまっているわけでもないころから、すでに描く行為は始まっているのです。

子どもが「かく」ことに強い関心を示し始めるのは、だいたい１歳半頃です。大人が鉛筆やペンで何かを書いていると、子どもは興味を持って、寄ってきます。そして、自分もかこうとします。**この黄金のタイミングを、見逃してはいけません！**

紙とクレヨンを与えたり、お絵かきコーナーをつくるなどして、子どもの表現活動を応援しましょう。

もしも、この原初的な表現欲求が現れる初期段階で、「かく」ことをサポートする環境が全くなかったとしたら…

ぐるぐる描きをすることもなく、自分や家族を描くこともなく、子どもの表現欲求はフタをされてしまうかもしれません。それは子どもにとって、無意識のうちに心の整理や感情の発散を助けてくれる、もう一つの言葉を失うのと同じぐらい苦しいことでもあるのです。

ゆみちゃんのえんぴつ

「かきかき」に興味をもち始めた、１歳３カ月のゆみちゃん。今日もえんぴつで何か描こうとしています。でも、力まかせに押しつけすぎて、えんぴつがちっとも動きません。それを見ていたパパが言いました。

―そんなに力を入れんでも、かる～くかいたらいいんやで。

そうしてみると、みるみるえんぴつは動き出しました。

さりげない大人の関わりは、子どもの表現をサポートする大切なポイントです。

いよいよかきはじめた！

お絵かきコーナーのやくそく

いよいよ子どもがお絵かきを始めたら、家の中にぜひ表現のための遊び場（お絵かきコーナー）をつくりましょう。1畳分ぐらいの床や壁面があれば OK です。

お絵かきが始まると、どうしても気になるのが、家のあちこちに描き散らかされないか…ということ。

そこで、お絵かきコーナーを用意するときには、子どもと次の約束をします。

①お絵かきする時はこの場所で紙に描くこと。それ以外のところに描いてはいけません。なぜかというと、クレヨンは、一度描いたら消せないからです。だから、絵はここで紙の上に描こうね。

- 実際に紙にクレヨンで描いた形を消しゴムで消してみて、消えないことを示す。

②お絵かきがおわったら、かならずクレヨンを片づけましょう。放ったらかしにしたままで、次に描こうと思ったら、ほしい色がなかった…なんて困るよね。だから、遊んだあとはクレヨンたちも箱の中に戻してやりましょう。

子どもがうなずけば、意図は伝わっています。わかっていないようなら、言い方を変えて、伝わる言葉を考えてください。

幼い子どもは、大人との約束を誠実に守ろうとします。最初にきちんと約束をしておけば、心配するような行動を取ることはないでしょう。

すぐできる！わが家のミニ・アトリエ

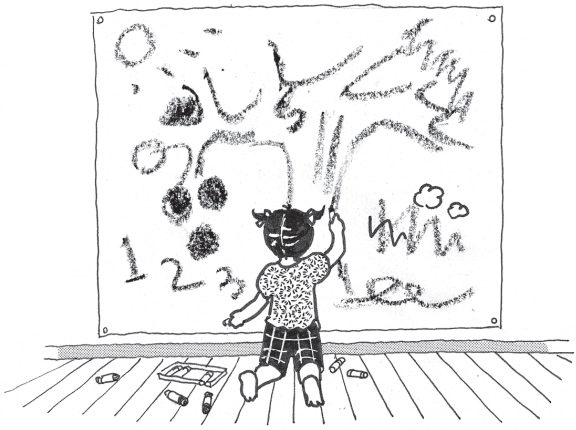
● 準備するもの ●

ビニールシート／画板（下敷きになるもの）／画用紙・広告や包装紙の裏紙など／クレヨン・鉛筆・色鉛筆など

● 画材をまとめて空き箱に入れる。

● 遊ぶ場所にビニールシートを広げ、紙･画版･画材ボックスを置く。あるいは、壁に模造紙などをはる。

● 常設できるスペースがあれば、壁面に模造紙を貼ったり、床にビニールシートを敷いて、紙・画板・画材ボックス等をそろえたお絵かきコーナーをつくっておくとよいでしょう。



「かいて！」とせがまれたら

「ママ、描いて！」

この言葉に大人は弱いものです。絵を描くのが好きな人は求められるままスラスラ描くでしょうが、苦手な人は困り果てます。苦手な人にとってはキョーフの一言かもしれません。

しかし、子どもとの関係づくりという点からみれば、絵が得意だから○、苦手だから×と単純には言いきれません。

親が子どもの求めに応じすぎると、子どもが自分で表現する機会や意欲を失ってしまうことがあります。これは好ましくない依存心を生むかもしれません。（親は自分より上手いから、いつも親を頼るようになる。）

逆に「何でもいいから自分で描きなさい」と突っぱねてしまうのもＮＧ。描きたい気持ちはあっても描くすべをもたない子どもは、途方に暮れ、描くことへの関心を失ってしまうでしょう。

そこで、**「かいて！かいて！」とせがむ時期がきたら、親子でいっしょに描くことをおすすめします。**

親がものすごく上手な絵を描いて子どもを圧倒するのでもなく、突き放して可能性を閉ざすのでもなく、コミュニケーションしながら一緒に楽しむのです。

具体的な方法は、12 ページ以降の**おすすめアートワーク**に！

絵は心のことば

心のサインに目をとめよう

―急に黒一色の絵を描いた
―色をぬりたがらず、いつもエンピツだけで描く
―急に絵が（年齢不相応に）幼稚になった…　　など

子どもの絵に現れる変化に、親は気づいてください。絵はストレートに子どもの気持ちや境遇とつながっています。

色や形がもつ意味、線のタッチや色のぬり方など、表現から心のサインをキャッチすることができます。早く気づくことで改善が望めるケースも多いので、忙しいあなたも、ほんの少し子どもの絵を眺める時間を持ってみてください。



子どもの絵の発達段階

児童絵画研究の第一人者ローダ・ケロッグは、100万枚に及ぶ子どもの絵の分析から、幼児期においては子どもの絵の発達は万国共通の過程を示すことを明らかにしました。おおよその発達段階の道すじを知っておけば、役にたつでしょう。

1～2歳
クレヨンを握ってジグザグを描く。渦巻きやゆがんだ円、グチュグチュした線を描き、やがてきれいな○が描けるようになる。

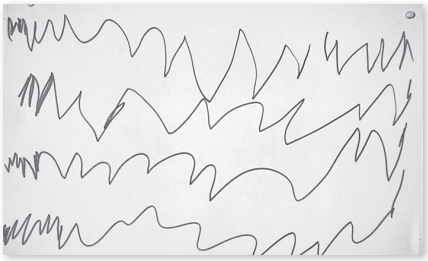
2～3歳
クレヨンの扱いに慣れ、筆圧も適度になる。直線や曲線が描ける。

3～4歳
○から顔が出現する。やがて人物像（頭足人）が現れる。

4～7歳
ものの大小によって（自分にとっての）重要性を表現する。

7～12歳
視覚的リアリズムを身につける。客観的な描画を試みる。大小の釣り合いが実際に近くなり、人体もバランスがよくなる。遠近法に気づく。横顔が描ける。

大人から見るとただのらくがきだけど…



「かみなり」



「パパ」（ヒゲに注目！）



まるが顔になり…



「ドラえもん」



頭から手足が出て…（頭足人）



胴体が登場！



さらに人らしく進化

おすすめアートワーク1

ぐるぐるアート（スクリブル）

子どもが描くことに慣れるためには、ぐるぐる画法が最適です。絵を描きはじめたら間もなく、大人からの少しの刺激で多彩なぐるぐる表現をマスターします。

たかがぐるぐる描きとあなどるなかれ！ぐるぐる描きを通して、手や腕のコントロールを習得していきます。また、子どもの表現活動を支援・強化することは、創作意欲を刺激し、自発性・積極性を高め、情緒の安定にも有効です。

さあ、子どもが描き始めたら、早速お絵かきコーナーをしつらえて、大人もいっしょに遊びましょう。

大人からの声かけ例

「お絵かきをする時は、なるべく腕を大きく動かして、紙の白いところが見えなくなるくらい、思い切ってグルグル描こうね。公園に行って、大きな木の回りをぐるぐる走っている気持ちで。（実際にぐるぐる描きをしながら）ほら、グルグル、グルグル。･･･あら！不思議。本当に走っているみたいだね。ちょっとゆかいな、楽しい気持ちになってきたでしょう？」

導入の言葉は、子どもの生活体験とつながった表現がポイント。ぐるぐるを具体的にイメージできる言葉を探しましょう。

ぐるぐるからはじまるコミュニケーション

お絵かきは、思いを外に表し、伝え、大人から承認される機会を作ります。そのことは彼らの自尊感情を高め、「私は認められている」「私は生きていていい」という肯定的感情を抱かせます。大人から見ればよくわからない、奇妙な形や色であっても、子どもにとっては具体的な何かであり、その作品を通して会話を進めることができます。

問いかけは、「この形は何かな？」と関心を寄せるだけでもいいのです。そこから子どもは言葉を探し、考える機会を得ます。彼らの内部で思考力が働き、体験が言葉にまとまります。

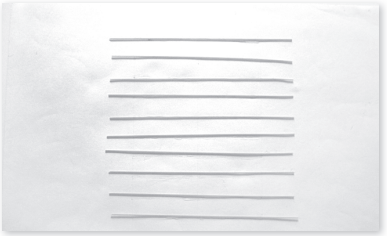


おすすめアートワーク2

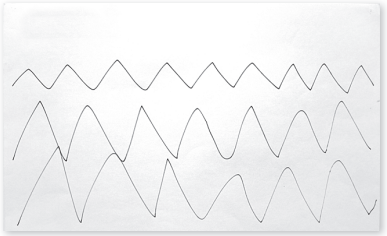
線 み つ け

身のまわりから線や形を発見する

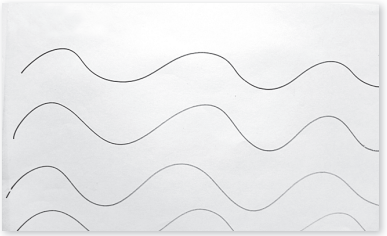
私たちのまわりには、さまざまな線や形がひそんでいます。線は描画の基本要素。身近な物の中にいろいろな種類の線を発見し、子どもの造形感覚を刺激しましょう。



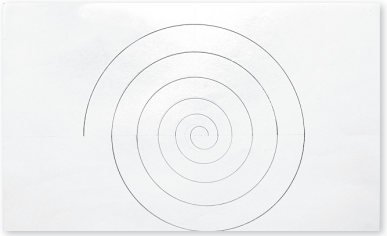
「スパゲティってまっすぐ！」



「ギザギザしてるのはどんな物?」



「うねうね、なみなみ」

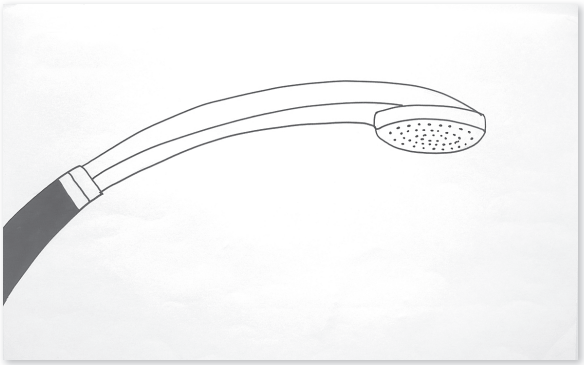


「ぐるぐる、ペロペロキャンディ？」



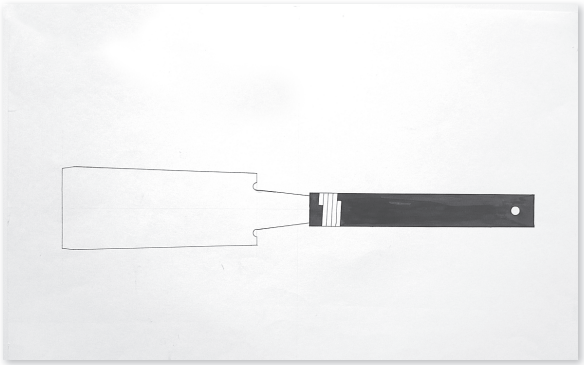
「もつれてグシャグシャ…」

線みつけサポートツール（かきこみ式）

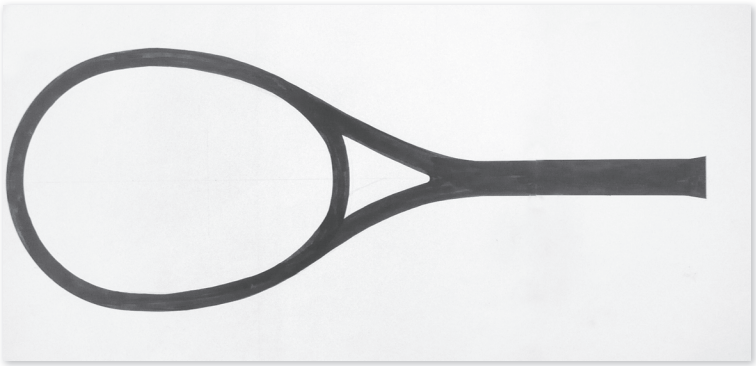


「シャワーの水はどんなふうに出てくる？」





「ノコギリの刃はどんな形？」



「ラケットにガットをはろう！」

おすすめアートワーク3

ねんど遊び

ねんどは、触覚を刺激し、筋肉記憶を増やす、すぐれた素材で、小さな子どもにも最適です。

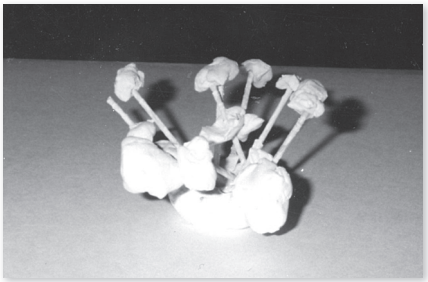
幼児の身体感覚は、体の部分によってバラつきがありますが、手の働きによって統合されると言われています。ですから、幼児の生活に手作業を多く取り入れることは、とても重要です。

２～３歳児がこねることができる柔らかい粘土がありますので、それを求めるとよいでしょう。





鳥のつがい（小３女）
卵を温める鳥と
飛び立つ鳥を表現

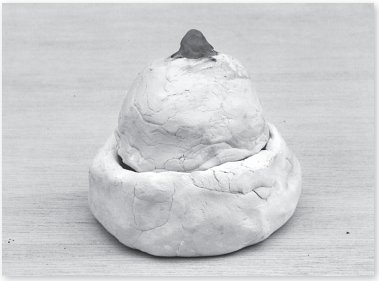


木（3歳 男）

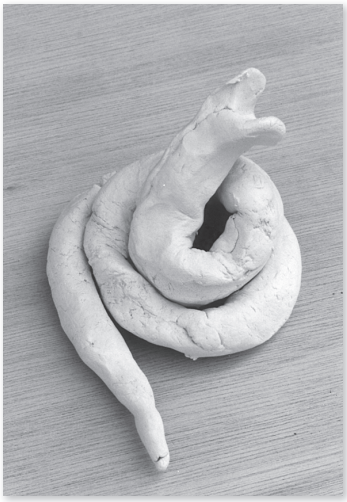




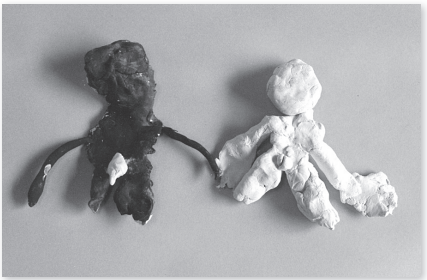
かお（5歳 男）



おっぱい形の物入れ（小1男）



ヘビ／うんち（小1男）



男の子と女の子（小1男／小1女）

おすすめアートワーク４

かわりばんこ線引き遊び

（相互画面分割画法）

会話を増やし、信頼関係を強める共同制作です。

①八つ切サイズの紙を１枚用意します。２人で１枚の絵を仕上げます。「いっしょに絵を描いたら、どんな気持ちがするかな？」と子どもに呼びかけてみましょう。

②大人と子どもそれぞれ１本ずつクレヨンを取ります。大人はグレーを使い、子は好きな色を選んでください。

③大人から子どもに、画面をとりかこむ枠がある方がよいかどうか尋ねます。ある方がよいと答えれば、グレーで画面に枠線を引きます。

④まず大人から描き始めます。画用紙の左から右（右から左）へ、あるいは上から下（下から上）へ、直線か曲線を一本引きます。

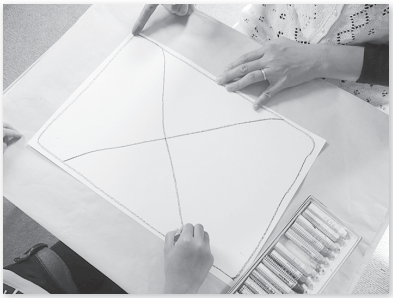
⑤次に子どもが、逆の地点から、大人の引いた線に交差するように線を引きます。これを交互に 10 回くらい繰り返します。

⑥線が交わってできた形を、それぞれ自分の好きな色でぬりこんでいきます。（えのぐを使っても OK）

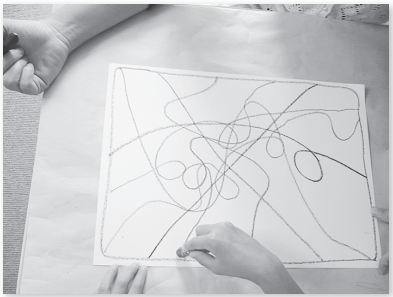
⑦色をぬりながら、動物、魚、くつなど色々な形に見えてきたら、目やしっぽ、足などを描き加えて仕上げます。



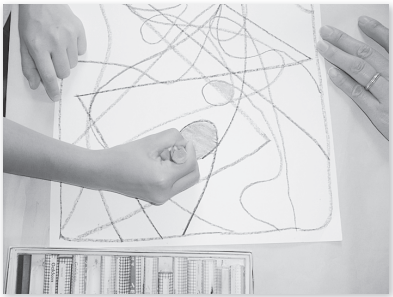
Ⅰ. 枠どり（子どもが希望すれば）



Ⅱ. 交互に線を1本ずつ引いたところ



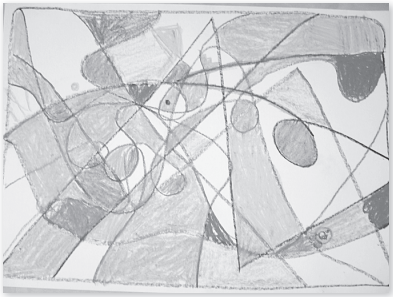
Ⅲ. 交互に線引きを繰り返す



Ⅳ. 好きな色をぬっていく



Ⅴ. かたち発見！（例：魚）



完成作品例

- 交互に線を描くとき、例えば大人が上→下へ引いた場合、子どもは下→上へ引くことをすすめます。大人の描いた線に交わるように線を引くのは勇気のいる行為で、積極性を養うとともに、形を変えたスキンシップにつながります。
- 個々の形が小さくなりすぎないところで終わってください。

おすすめアートワーク5

ものがたり切り絵

（物語相互完成画法）

ファンタジーを育てるペアワークです。

①かわりばんこ線引き遊びの手順①～⑥までを行います。（前頁参照）

②色ぬりがおわったら、大人と子どもが協力しながら、個々の形をハサミで切りぬきます。

③八つ切サイズの色画用紙に、切り抜いた形を貼りつけて、イメージしたものをつくっていきます。まず、子どもがつくります。

④できあがったら、大人は子どもの作品について、どういう絵かをたずねます。「これは何？」「何をしているの？」「ここはどういう場所？」など。

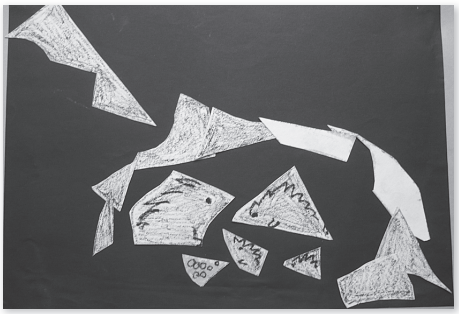
⑤子どもの作品の内容（物語）を受けて、次に大人が制作します。

- 子どもの作品が肯定的な内容であれば、大人は自由に制作してください。
- 子どもの作品が否定的な内容（苦難・危険・悲観）であれば、大人はそれを和らげ、フォローし、希望や安心感を与えるような物語をつくってください。



A. 子ども（小１女）の作品

モグラが顔を出しました。すると人間の足があり、ふまれそうになりました。モグラは急いでお家の中に入ろうとしました。そのとき雨が降ってきました。



B. 母親の作品

ハリネズミの家族が山のふもとの小さな穴に住んでいました。ある日夕立がきて、ひどい雷の音がしました。穴の中にいた２匹は「こわい、こわい」と大騒ぎ。そこへお父さんとお母さんが急いで帰ってきました。「もう大丈夫、クリの実をおあがり」とお母さん。子どもたちは安心しました。

Ａの動物は怖い思いをしていますが、Ｂの動物は危険から守られ最後に安心します。子どもの不安感もフォローされます。

おすすめアートワーク6

くらしの中で創造性アップ

くらしの中で美をみつけること、自然の不思議を感じることは、感性を豊かにし、創造性の強化につながります。

ワクワク創作たからばこ

適当な大きさの箱をきれいな包装紙や和紙、色紙などで飾りつけます。中に、絵の美しい包装紙・きれいなカード・お気に入りのきりぬき・リボン・シール・ビーズ・小箱など、子どもの創作意欲を刺激しそうなものをストックしておきましょう。

自然のめぐみのビンづめ

大きめの透明ガラスビンに、身のまわりにある自然物をあつめて入れましょう。松かさ･たね･落ち葉･木切れ・小石…どこにでもある物が、創作意欲をかきたてるアイテムに変身します。

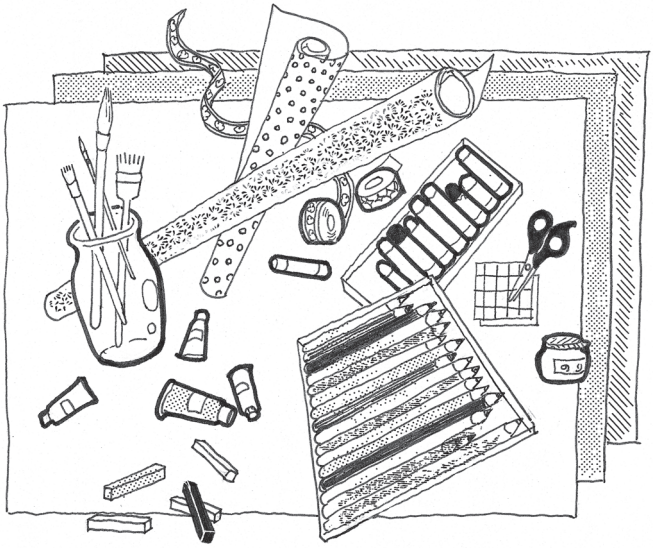


しぜんウォッチング

自然は偉大なもう一人の母親。日の光･空･風･雲･雨音･月の形･星の輝き・嵐のごう音・木漏れ日…生活の中で自然を感じる場面をつくり、今日の天気や季節の移り変わり、自然界の不思議などについて、親子で話し合ってみましょう。

おすすめ画材

　シュタイナー教育でも使用される蜜ろうのクレヨンは、口に入れても害がない安心な素材で出来ています。発色も透明感があって美しく、おすすめです。ふつうのクレヨンより少し高額になりますが、可能であれば試してみてください。



● 参考図書

J・H・ディ・レオー『絵にみる子どもの発達』（誠信書房）
ローダ・ケロッグ『児童画の発達過程
―なぐり描きからピクチュアへ―』（黎明書房）
小村チエ子『子どもの絵からのメッセージ』（朱鷺書房）
小村チエ子『子どもの絵　心の秘密』（朱鷺書房）

本書の作成にあたり池田市公益活動助成金の助成を受けております。

2011 年 11 月 25 日発行
発行所　特定非営利活動法人ライフスキル研究所（大阪府池田市）
Tel.072-750-2797　Fax.072-750-2805
E-mail　info@lifeskill-npo.org
URL　http://lifeskill-npo.org/
Copyright© 特定非営利活動法人ライフスキル研究所
無断複製転載禁止